

症例検討会

症例2

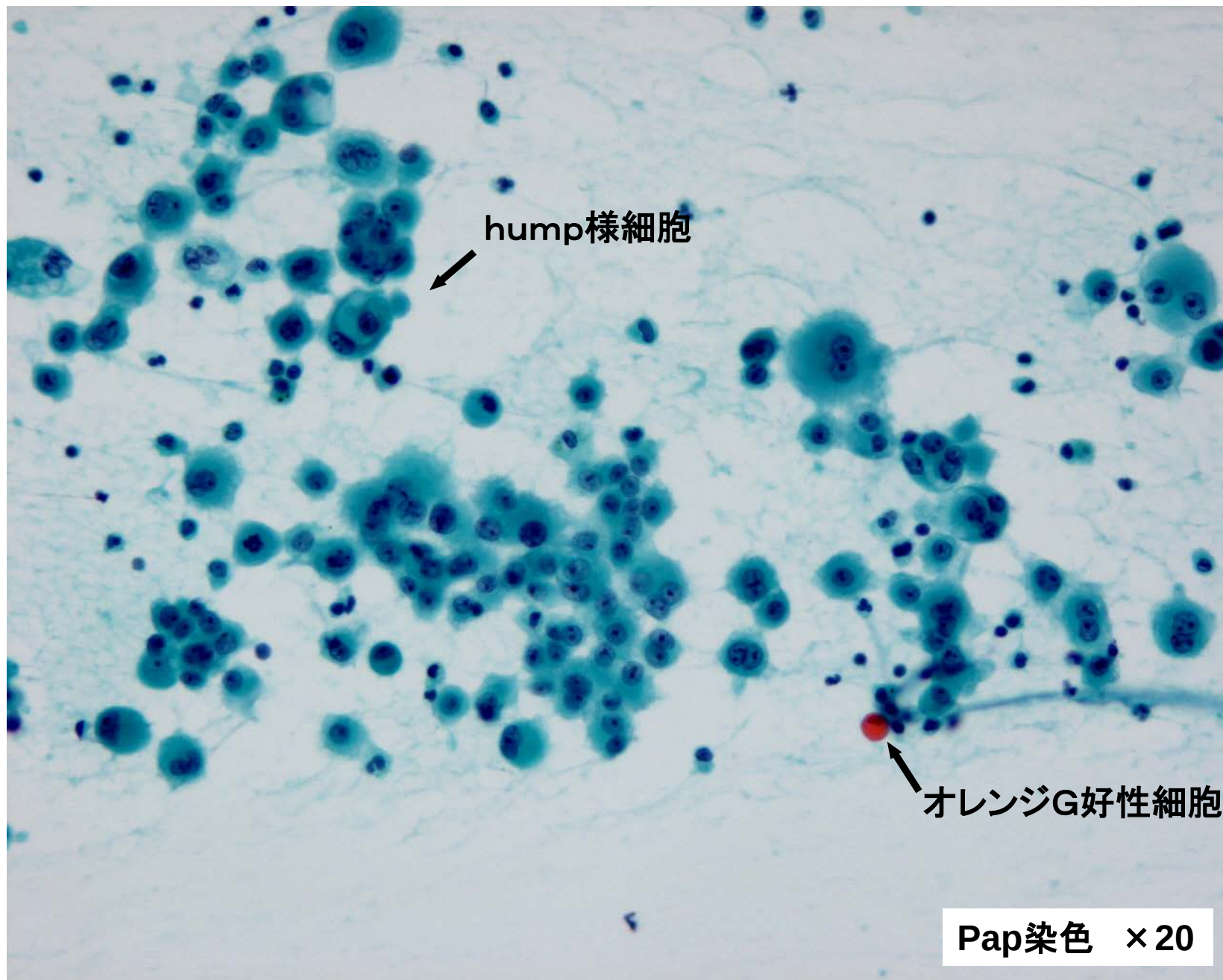
大分市医師会立アルメイダ病院

病理診断科

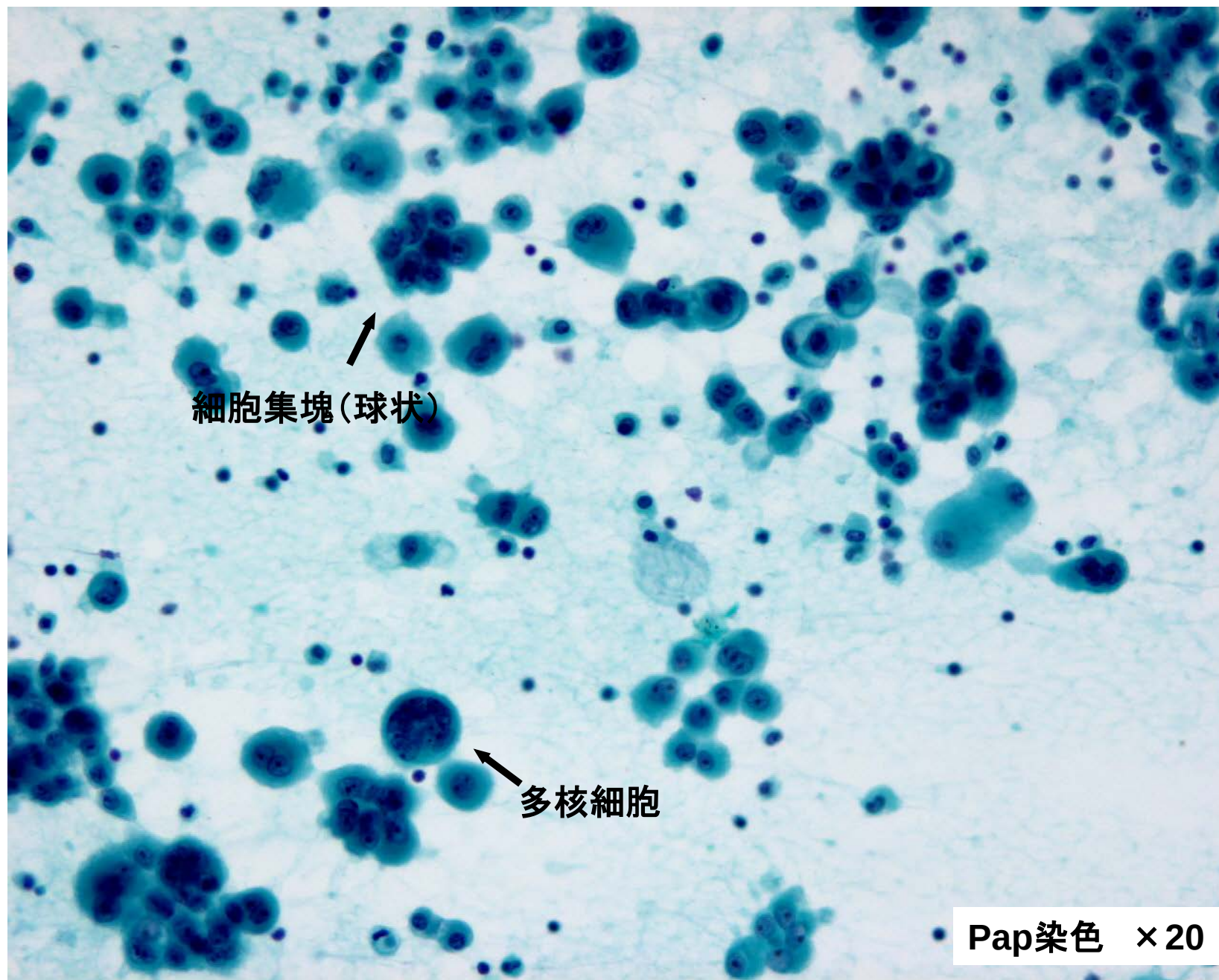
木村 元子

症例

- 年齢・性別：80代・男性
- 喫煙歴：なし
- アスベスト曝露歴：なし
- 職業：タクシー運転手
- 材料：胸水
- 臨床所見：CTにて胸膜腫瘍疑い

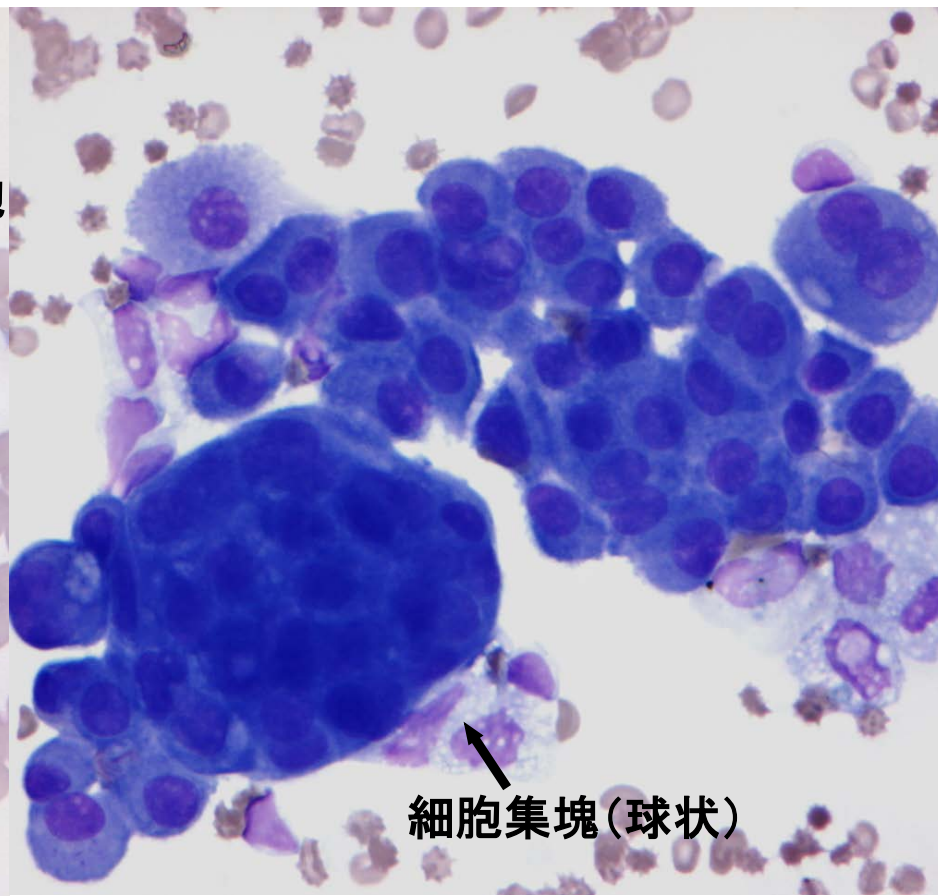
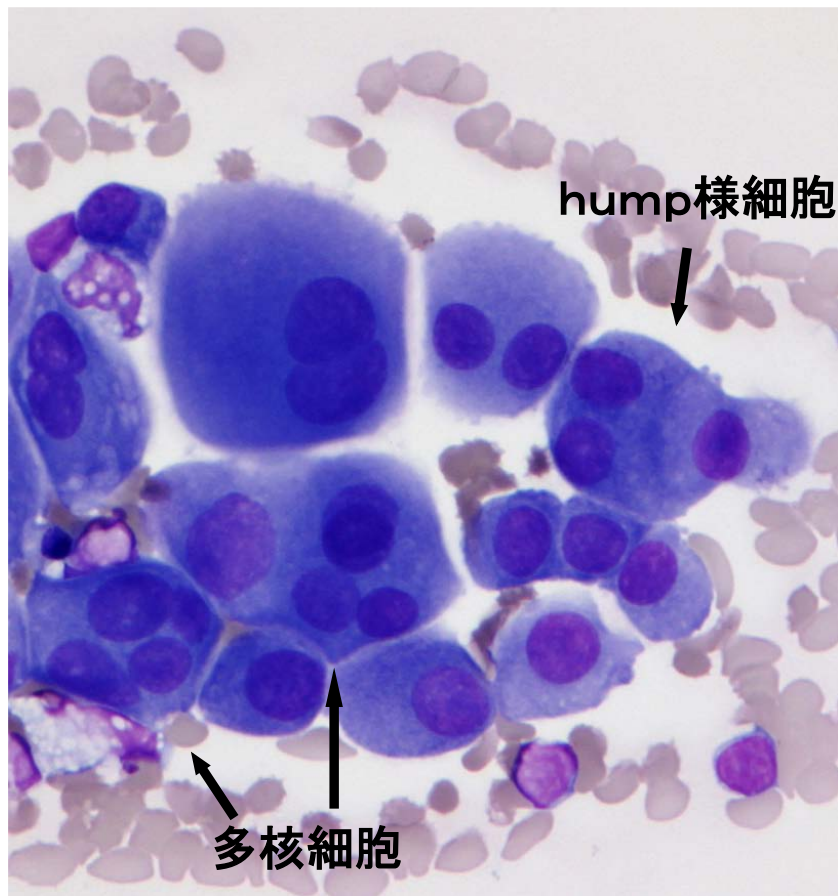


Pap染色 × 20



相互封入像
↗

Pap染色 × 40



Giemsa染色 × 40

細胞診断

- 判定 : Class V 陽性
- 推定病変 : Malignant mesothelioma

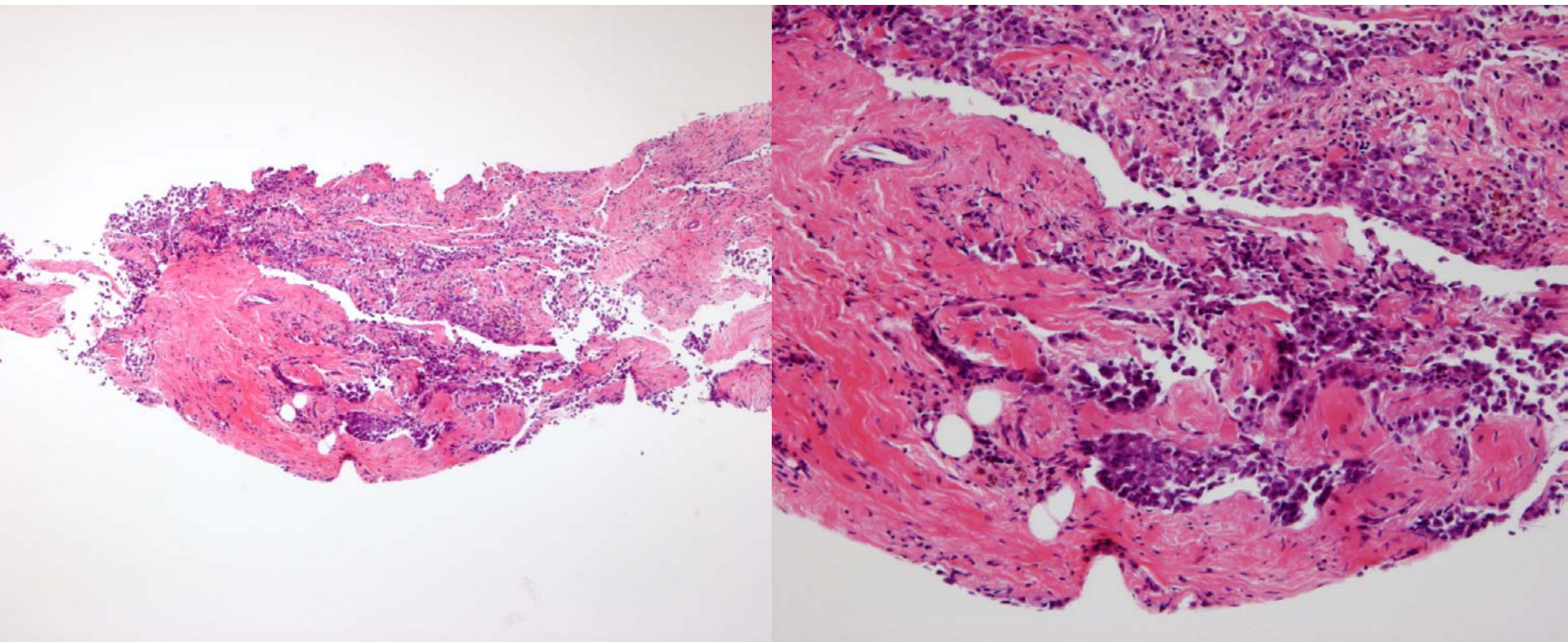
悪性中皮腫の判定基準

- 出現様式：細胞多数（集塊状、孤在性）
- 細胞集塊：球状、乳頭状
- 細胞質：辺縁不明瞭、重厚感
- 結合性：相互封入像、hump様細胞
- 核：中心性、類円形で均一感、多核細胞
- その他：オレンジG好性細胞、Ⅱ型Collagenous stroma

※青字は、今回の症例で見られた所見。

組織診断

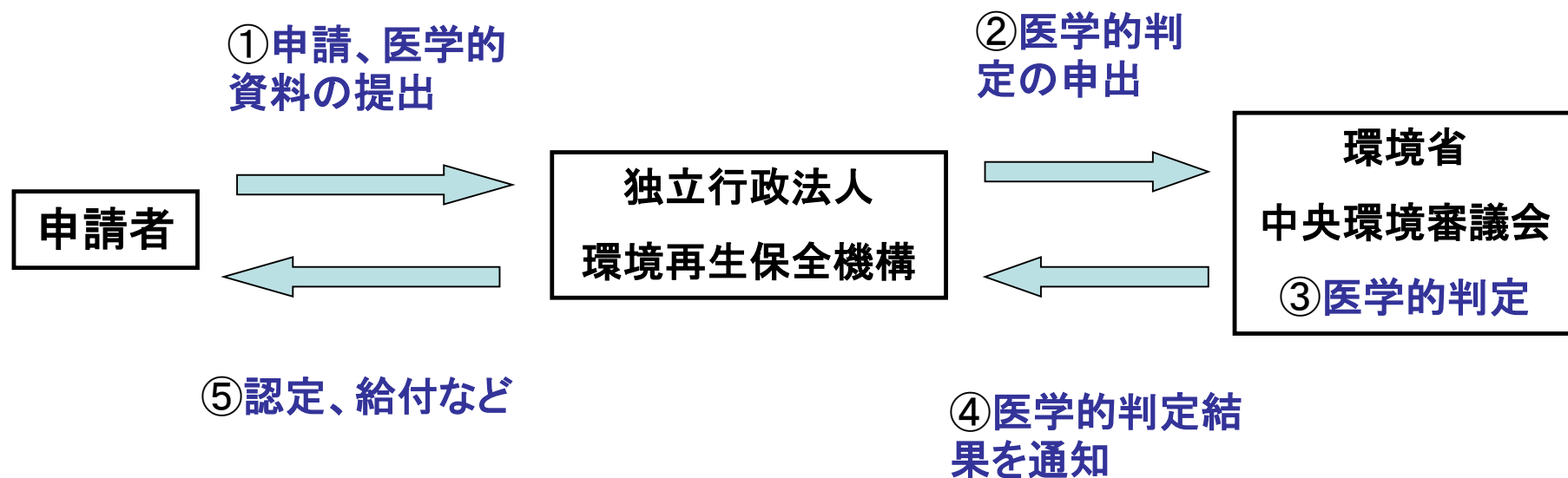
上皮型胸膜中皮腫(低分化型)



悪性中皮腫とは

- 悪性中皮腫は、漿膜を覆う中皮細胞由来の悪性腫瘍である。
- 胸膜に多いが、腹膜や心嚢に発生することもある。
- 60代以降の男性に多く、約7割にアスベスト（石綿）曝露の職業歴を有する。曝露後の潜伏期間は30年～40年に達する。
- 予後は著しく不良。
- 今後、増加傾向にある。

石綿健康被害救済制度について



石綿健康被害救済制度について

- 病理組織診断なしでは、通常は中皮腫と判定できないが、細胞診断が実施されている場合、その他の所見と総合して中皮腫と判定できる場合がある。
- 細胞診断を実施している場合に提出する資料は、パパニコロウ染色による形態的特徴及び免疫染色の結果。

※上皮型中皮腫の免疫染色は、病理組織診断の場合に準ずる。可能な限りパパニコロウ染色標本(セルブロック標本の場合はHE染色標本)も提出する。

石綿健康被害救済制度について

救済制度に必要な免疫染色の種類

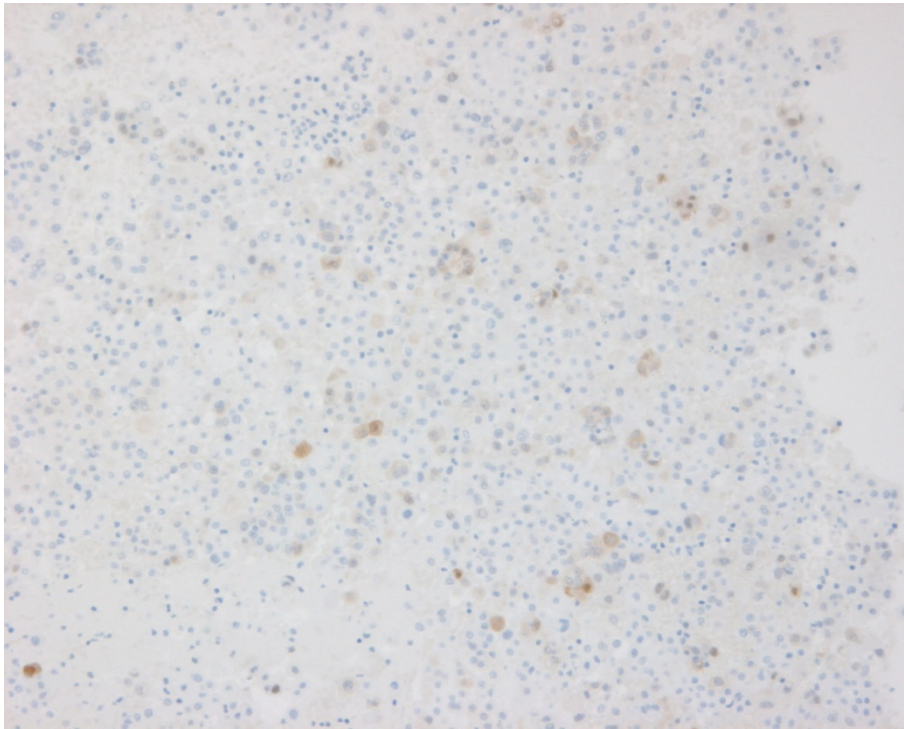
	陽性抗体	陰性抗体
上皮型 胸膜中皮腫	<u>2抗体以上</u> calretinin(強く推奨) WT-1 D2-40	<u>2抗体以上</u> CEA(強く推奨) TTF-1 Napsin A PE10
上皮型 腹膜中皮腫	<u>2抗体以上</u> calretinin(強く推奨) WT-1※1 D2-40	<u>2抗体以上</u> CEA(強く推奨) MOC-31 Ber-EP4 ※2

※1 婦人科腫瘍において高率に陽性となるため注意が必要

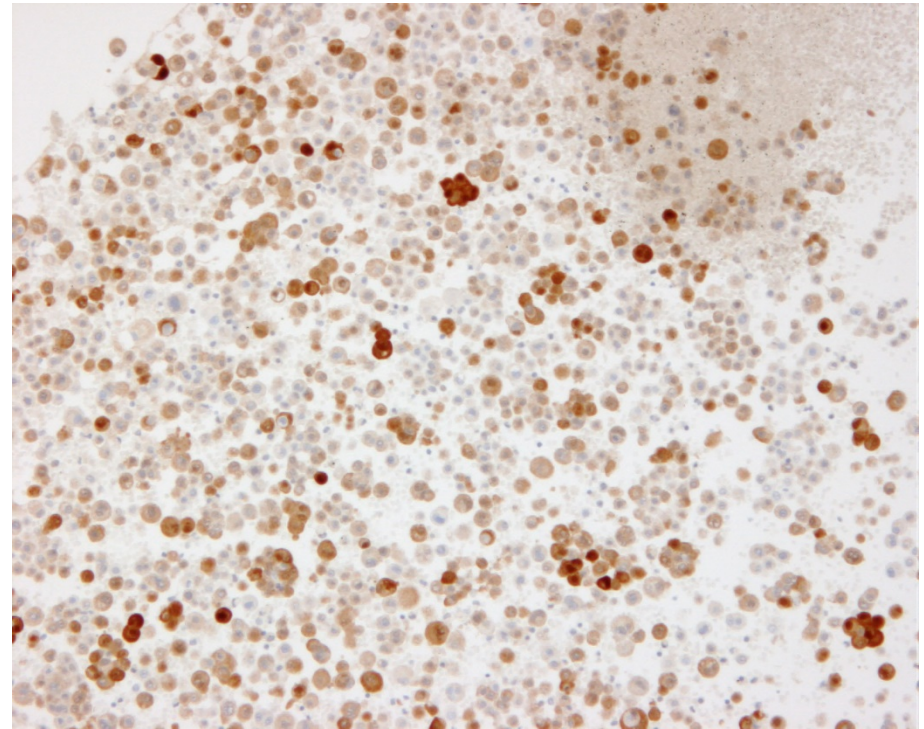
※2 婦人科腫瘍との鑑別にER、PgRを追加

セルブロック法

calretinin



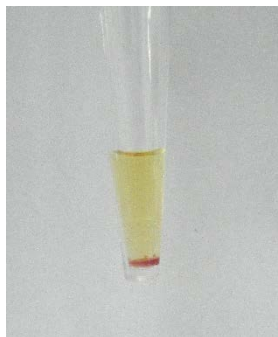
当院での従来法



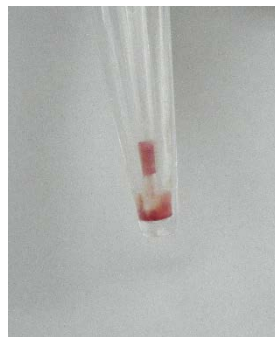
スポイト法

スポイトで作製したセルブロックで、calretininの免疫染色を実施したところ、従来法に比べて染色性が向上しました。

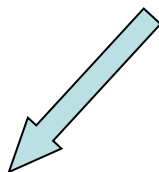
セルブロック(スポイト法) 作製方法



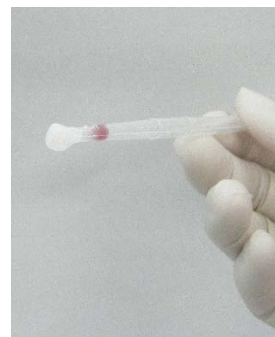
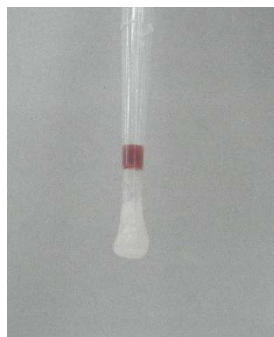
①遠心



②スポイトで沈渣を吸う ※5mm以内

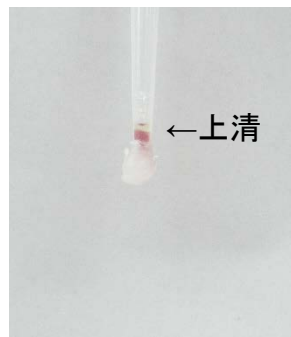


③パラフィンで蓋をする



※パラフィンを完全に固める

セルブロック(スポイト法) 作製方法



④ スポイトを切り、スピッツに入れ、遠心
※約10秒間

⑤ 上清を吸い取る



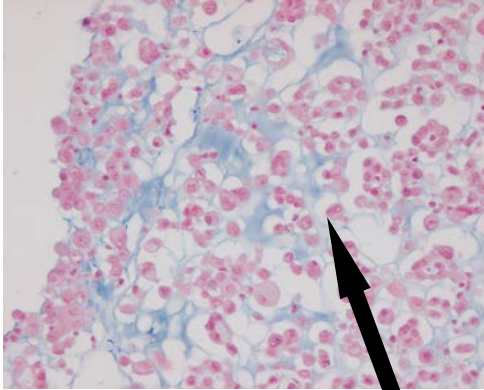
VIP



⑥ ブロックに入れる
※ホルマリン固定(最低5時間)

⑦ 包埋・薄切

セルブロック法

	当院の従来法	アルギン酸法	スポイト法
利点	・操作が簡単 ・特別な試薬が不要 ・アルシアン青染色に影響がない	・沈渣が少なくても作製できる 	・沈渣が少なくても作製できる ・アルシアン青染色に影響がない ・腫瘍細胞をより多く集められる ・特別な試薬が不要
欠点	・フィブリン塊がないと作製できない	・操作が煩雑 ・アルシアン青染色に影響がある(アルギン酸が染まる)	・操作が煩雑

まとめ・考察

- 今回の症例は悪性判定基準及び免疫染色より、悪性中皮腫と判定した。
- 悪性中皮腫では、救済制度があり、その制度を受けるために医学的資料が必要であるが、細胞診断も医学的資料になり得る。その際、セルブロック標本が重要。
- 今回の症例では、セルブロックの作製をスポイト法で行うと、免疫染色の結果が良好となった。これは、集細胞により腫瘍細胞がより多く集められたため、フィブリンが除去され、ホルマリンの浸透が良くなったためと考えた。よってスポイト法でのセルブロックの作製は有用であると考えられる。